

科目名	国際コミュニケーション II	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			国際学科	□ 必修 ■ 選択
			学科	□ 必修 □ 選択
英文表記	Global Communication II	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	ドナルド ウッド	実務家教員担当科目	修得単位	2 単位
担当者名	Donald C. Wood	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	国際コミュニケーションとは何か、国際理解とコミュニケーションを実現するには何が必要なのか、実現する事によって日本、秋田、学生個人へのメリットは何か、これらの問題の答えを探る科目である。			
到達目標	さまざまな重要な世界的問題と、それが日本にどのように関係するかについてより深い知識を得ることができる。また、世界に対してより広い視野を持ち、地球規模の問題について世界中の人々と対話することができるようになることを目標とする。			
授業概要	科目の目的は、(1) 視野、英語力、自信を高め、(2) 世界的に重要なトピックについて学ぶことによって、学生が世界中の様々な人々とコミュニケーションをとるための準備を支援することである。そのため、様々な世界的に重要な問題を取り上げる英語の教科書を使用する。また、これらの地球規模の課題が東北地方や秋田県にどう関係するのかを考えることを目指す。			
授業計画				
第 1 回	Introduction: 説明、目標、概要、国際コミュニケーションとは何か、など			
第 2 回	Pandemic and People's Lifestyle (Unit 1)			
第 3 回	Road to Decarbonization (Unit 3)			
第 4 回	Online Learning and School Life (Unit 4)			ミニテスト ①
第 5 回	Discrimination Against Asian Americans (Unit 6)			
第 6 回	Gendered Division of Housework (Unit 7)			ミニテスト ②
第 7 回	Preparing For Emergencies (Unit 8)			
第 8 回	Ukraine and Afghanistan (Unit 9)			ミニテスト ③
第 9 回	Digital Society (Unit 10)			
第 10 回	Climate and Infectious Diseases (Unit 11)			ミニテスト ④
第 11 回	Overtourism and Undertourism (Unit 12)			
第 12 回	Multicultural Exchange in Japan (Unit 13)			ミニテスト ⑤
第 13 回	Changing Africa (Unit 14)			
第 14 回	Helping People Make Better Choices (Unit 15)			ミニテスト ⑥
第 15 回	Student presentations (学生発表) + まとめ + 定期試験の話・復習など			
第 16 回	定期試験			
授業時間外の学習	教員は毎週学生に課題を与える。学生は次回までにその課題の答えを(日本語で)作成し、授業中指名されたらその答えを共有する。第 15 回目に学生発表もある(教員は初日に説明する)。さらに、ミニテストと定期試験に向けて事前に勉強することが望まれる。これらについては、毎週教科書の章の最小の 2-3 ページを事前に読み、質問に答えるように努めることが求められる。			
履修条件 受講のルール	学生は毎回授業の準備をし、授業に出席し、遅刻しないようにし、注意を払い、質問された時にすぐに答えられるようにすることが求められる。			
テキスト	CLIL: Discuss the changing World 2, M. Nakaya et al., Tokyo: Seibido (2024) 『CLIL: 英語で考える現代社会 2』、中谷、油木田、山崎、Benfield 著、東京: 成美堂 (2024 年)			

参考文献・資料	特になし
成績評価の方法	定期試験: 40% ・ ミニテスト (6回) : 30% ・ 学生発表: 30% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	基本的に月曜日の午後 (教員は説明します)
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	教科書は英語で書かれているので授業は英語の能力の向上と自信に繋がると考えますが、この授業は「英語の授業」ではありません。教員は黒板に英語を書くとしても基本的に授業を日本語で行いますので英語に自信があまりない学生も受講できます。大歓迎です。All students are welcome!